

平成 28 年度事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

【概況】

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行なった。

禅文化の普及事業（公益目的事業）では以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めている。今年度より新たに天龍寺史研究班が発足した。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化し、一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業も進んでいる。28 年度は静岡県方広寺や京都府円福寺、滋賀県瓦屋寺などの所蔵品の悉皆調査を行なった。

広報・普及活動では、公開講演会や、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行として『永源寂室和尚語録』、『禅に親しむ』や『2017 年禅語こよみ』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨濟宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行なった。

共益事業では、遠諱事業を中心とした臨黄合議所関連の業務を行なっている。

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』(国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年)として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、巻十の長慶和尚章第二四則より読みはじめ、巻十一の保福和尚章第二二則の二十九則を読み進んだ。

研究会の開催日は、2016 年 4/22、5/27、6/10、6/24、7/8、9/23、11/11、11/25、12/9、2017 年 1/13、1/27、2/10、3/10。

講師：衣川賢次（花園大学教授）

班員：川島常明（大通院住職）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師）／久保護（花園大学科目等履修習生）／古勝亮（京都大学博士後期課程）／鈴木洋保（花園大学非常勤講師）／鈴木史己（京都大学博士後期課程）／土屋昌明（専修大学教授）／小川太龍（花園大学非常勤講師・常楽寺）／小宮山祥広（仏楽学舎）／呉進幹（杭州佛学院留学生：花園大学博士後期課程：戒法法師）／竹田治美（奈良学園大学人間教育学部准教授）／雷漢卿（四川大学：文学与新聞学院教授）／王静（河南師範大学：皇学館大学客員研究員）／張黎（千葉大学：言語教育センター）／林芬妙（花園大学博士後期課程：台湾留学生）／川野晃斉（花園大学修士前期課程）／陳菲（花園大学修士前期課程：中国留学生：法名空慧）

「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、休会となった。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／中島志郎（花園大学教授）／北畠利信（花園大学非常勤講師）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師）／久保護（花園大学科目等履修習生）

「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、巻十七雲居道膺章全三六則の残り六則、曹山本寂章全三十二則（一則を残す）を読み進んだ。

研究会の開催日は、2016 年 6/5、8/7、9/17、11/19、2017 年 1/8、3/19。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園

大学非常勤講師) / 久保讓 (花園大学科目等履修習生) / 三浦國雄 (大東文化大学教授) / 土屋昌明 (専修大学教授) / 下定雅弘 (岡山大学教授・北京事務所長) / 末木文美士 (国際日本文化研究センター教授) / 齊藤智寛 (東北大学準教授) / 石野幹昌 (名古屋大学大学院博士課程) / 石井修道 (駒澤大学教授) / 小川隆 (駒澤大学教授) / 須山長治 (駒澤大学非常勤講師) / 中木 愛 (龍谷大学専任講師) / 古勝亮 (京都大学博士後期課程) / 吳進幹 (杭州佛学院留学生: 花園大学博士後期課程: 戒法法師)

2. 禪宗經典研究班

禪文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨濟宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

「楞伽經」研究会 [班長 常盤義伸 (花園大学名誉教授)]

禪文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽經』四卷本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤義伸著『楞伽宝經四卷本の研究』をテキストとして、梵本と求那跋陀羅三蔵の漢訳本を対比しながら読み進めている。

本年度は2016年4/25に巻一第13段より始めたところ、常盤先生の個人的状況から、研究所には出向けなくなったため、研究所に集まったの研究会は休会となった。しかし、『楞伽經』梵文テキストの完成とその日本語訳の完成をめざして、研究は継続した。

2016年10/17 巻一の梵文テキスト・日本語訳を終えた。

2017年3/30 巻二の梵文テキスト・日本語訳を終えた。

班員: 西口芳男 (禅文化研究所) / 小嶋孝 (東洋大学大学院哲学専攻・仏教学専攻博士前期課程終了) / 種村辰男 (塾講師、FAS協会会員) / 嶋本浩子 (日本経済大学神戸三宮キャンパス非常勤講師)

臨濟宗經典研究 [班長 西村恵学]

現代の臨濟宗で常用されている經典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

3. 哲学研究班 [幹事 森 哲郎]

平成28年度も、「大蔵会」としての仏典研究会を上田閑照先生の指導のもと年4回ほど開催した。長期に渡る「華嚴五教書」の講読研究完了(平成24年2月24日)の後は、新たな仏典研究会として、世親の『唯識三十頌』の講読研究をほぼ1年間継続し、その読了後は、『成唯識論』に取り組んでいる。チューターは大井和也氏が務め、5月22日、9月4日、11月19日、2月19日の4回、実施した。参加者は十数名であるが、各自熱心にとり組んでいる。

なお同じく上田先生の指導のもと、西田哲学研究会と西谷研究会も各通年4回の頻度で継続している。西田哲学研究会では、目下、主著の『働くものから見るものへ』の「場所」論文に取り組んでいる。西谷研究会では、夢窓国師の『夢中間答』を輪読した後に、西谷先生の後期の作品の講読研究として、目下、『禅の立場』に挑戦中である。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

『寂室語録』研究〔担当 能仁晃道〕

永源寺開山寂室元光禅師の語録の訓読、注釈、意識を行ない、平成 28 年 9 月に『訓注永源寂室和尚語録』（全 3 巻）として刊行し本研究を終了した。

『延宝伝灯録』研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

『白隠』研究〔担当 芳澤勝弘〕

平成 28 年 3 月の『新編白隠禅師年譜』の刊行をもって本研究を終了した。

江湖開山語録研究〔担当 能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。現在、妙心寺派平林寺中興開山鉄山禅師の語録『懶斎集』を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中で、その研究成果は遠諱記念として平成 29 年 7 月に刊行する。

天龍寺史研究班〔担当 藤田琢司〕

大本山天龍寺の委託を受け平成 28 年度より発足。慶長 5 年（1600）までの天龍寺文書を整理した『天龍寺文書の研究』（思文閣出版、平成 23 年）に続く『天龍寺史』近世編の編纂作業を行う。基礎作業として『年中記録』を初めとする天龍寺所蔵史料の整理および内容把握を継続する。寺外所蔵史料の調査も必要に応じて行う予定。

以上と平行して、一部分のみの刊行に留まっている開山夢窓疎石の『夢窓国師語録』上下 2 巻の訓注作業を行い、語録全体の訓注の完成・刊行を目指す。

今年度は、夢窓録研究会を 12 月 14 日・2 月 16 日の 2 回、天龍寺史編纂室を会場に開催した。管長・宗務総長・教学部長ほか山内の僧侶、および山外の研究者が出席、藤田がレジュメにて報告し、禅文化研究所西口が補足説明を行なった。

また天龍寺所蔵の明版大蔵経・黄檗版大蔵経の重要性および保存状態の悪化が判明、現在整理および保存のための必要な措置を施しつつある。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。平成 28 年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2017 年禅語こよみ」（甲斐恵林寺所蔵品より）を刊行したほか、坐禅会で使用できるオリジナル「禅の葉」を発行した。

また、京都国立博物館での特別展「禅一心をかたちに」に合わせて実施する「春の京都禅寺一斉拝観」の専用ホームページ (<http://zendera.info>) を更新した。スマートフォンアプリ「京都禅寺巡り」にも特別公開情報を登録し発信した。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね7年を目途として活動している。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

禅の至宝（文化財目録整備事業）

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存している。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの日録情報を入力。平成28年度には、昨年度より継続中の大本山方広寺の所蔵品悉皆調査を継続中。ほかに、滋賀県の瓦屋寺（妙心寺派）、八幡の円福僧堂（妙心寺派）、熊本の見性寺（妙心寺派・花園大学歴史博物館に寄託中）の調査も開始。さらに、建仁寺塔頭の両足院、大本山南禅寺からの調査要請も受け付け、平成29年度から着手予定。なおこれらのデジタルアーカイブス調査は、花園大学歴史博物館と強く連携して活動している。

一般寺院什物データベース

①に連携するために優品を有する寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し販売を開始しているが、上記の文化財目録整備事業における調査を行なった当該寺院に、このデータベースシステムの利用を促し、所蔵品のデジタル画像と目録のデータベース化を推奨し、データ入力を完了した状態で納品している。平成28年度には、甲斐の恵林寺および、野火止の平林寺のデータを納め、東京麟祥院のデータおよび『禅 心をかたち』展で集まった情報を日本経済新聞社から受領し整理中。

2. 資料の収集・整理・公開

資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた文献資料と新たな購入や寄贈を受けた図書の整理を行なった。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。

WEB版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開中。

「特別展覧会」（花園大学歴史博物館と共催）

デジタルアーカイブス事業の成果として、禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。

平成28年4月2日から6月4日まで「湯島麟祥院 春日局と峨山慈棹展」を花園大学歴史博物館で開催した。

所蔵墨蹟類の保存・修復【50周年関連事業】

研究所所蔵墨蹟のうち、今後の展覧に耐えられるよう、とくに傷みがひどい優品を優先し、数年かけて修復する。今年度の修復はなし。

黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。但し、今年度の追加登録はなし。

誠拙周樗禅師墨蹟資料収集

大本山円覚寺中興大用国師誠拙周樗禅師 200 年遠諱（平成 31 年正当）に合わせ、円覚寺の依頼により、共同で禅師の書画墨蹟資料を収集し、情報を整理した上で墨蹟集を刊行する。3月初旬、円覚寺で、円覚寺派内、および派外から集まった資料をもとに、掲載選別を行なう会議があり、また図録の体裁についても相談を行なった。

問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

一休禅師が杖にしゃれこうべを付けている画像について（個人）／村田珠光が一休に参禅しているときみた圓悟克勤の墨蹟とは？（個人）／「父母未生以前の本来の面目は如何」の出典は？（個人）／白隠の騎獅文殊の賛「芥中劈白石海底掬青霜」の意味を知りたい（個人）／盤珪禅師の頂相賛の解説依頼（寺院）／性海靈見の偈に見える「我山」について（個人）／『若冲の画賛について（個人）／虚堂代別について（個人）／黄檗宗の位牌の書式について（個人）ほか、墨蹟や落款の読みなどを含め 40 件。その他電話による質問多数。

3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正などを行なった。

〈3〉 広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

240 号 特集「東京・麟祥院とゆかりの人々」

241 号 特集「禅と能」

242 号 特集「永源寺開祖・寂室元光禅師」永源寺 300 部購入。

243 号 特集「遠諱報恩大摂心からの一步」

主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数 2,959 名。

なお、243 号より花園会館と南禅会館の客室に常備いただいている。

2. 研究成果の刊行

日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ①訓注『永源寂室和尚語録』 永源寺開山語録研究会 (平成28年9月刊行)
初版700部。永源寺開山寂室元光禅師650年遠諱記念として発行。
- ②『禅に親しむ』 北野大雲 (平成28年9月刊行)
初版1500部。筆者が選ぶ禅者の遺したエピソード43話を収録。
- ③【重版】 訓注『槐安国語』2刷500部
- ④【重版】 『諸回向清規式抄』4刷100部

マルチメディア研究班の成果

- ①2017年禅語こよみ 甲斐恵林寺所蔵品より (平成28年9月刊行)
初版47,000部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
- ②オリジナル「坐禅会の栞」 7ヶ寺より受注
- ③【重版】 新装版『雲水日記』2刷1500部

3. 公開講義「禅思想の諸問題」 [講師 西村恵信(花園大学名誉教授)]

前所長による講義で、『信心銘闡義解』全3巻(中峰明本著)をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度は40回開催した。約20名が参加。平成29年4月で『信心銘』は読了し、『毒語注心経』(東嶺円慈注)を新テキストとする。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新を行なった。また連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録なども行なった。

臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なった。また現在展開されている「臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱事業」のページを更新した。

5. 公開講演会等

公開講演会

『湯島 麟祥院展』の記念講演会として、下記の講演会を実施した。

- ◆平成28年4月13日(水) 13:00~14:30
「湯島麟祥院の歴史」 竹貫元勝(花園大学名誉教授)
- ◆平成28年5月20日(水) 13:00~14:30
「春日局像と狩野探幽」 山下善也(東京国立博物館研究員)

教化・運営の実践講座(サンガセミナー)

寺院の公益性が求められるなか、僧侶や寺族が、より踏み込んだ知識や技能を身につけ、寺院の活性化につながるための実践講座。平成28年度は京都で10のセミナーを開講し、一般も含め約126名が受講した。

- ③京都禅寺一斉拝観

4月～5月にかけて、京都国立博物館での『禅』展の開催時期に合わせ、スマートフォンアプリ「京都禅寺巡り」に登録されている寺院に協力を依頼し、通常非公開寺院も含め64ヶ寺での一斉特別公開およびスタンプラリーを、臨黄合議所と京都市観光協会との共催により実施した。またスタンプラリーのスタンプ製作はシャチハタの協力を得た。

④臨川寺特別拝観

天龍寺塔頭で、夢窓疎石の墓所である臨川寺の特別拝観を大本山天龍寺の了解を得て、計7回開催した。

6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進した。また、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいは Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及した。今年度も一般向けの新刊点数が少なかったことから書店への積極的な営業活動ができなかった。ただし、京都・東京の両国立博物館で開催された特別展「禅 心をかたちに」のショップにて書籍・グッズ類を販売し、両館合わせて250万円の売上があったほか、遠諱事業の講演会や沼津市の『白隠塾フォーラム』などに出席し、関連書籍の販売を行なった。

さらに、平成28年9月23日（金）～25日（日）東京ビックサイトで開催された第23回東京国際ブックフェアに出展、書籍等の販売と共に特別展や大坐禅会の広報を行なった。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。
妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／神勝寺（広島・建仁）／酬恩庵（京田辺市・大徳）／東慶寺（鎌倉・円覚）／東京国立博物館／湯木美術館（大阪）

II. 収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新の Windows10 にも既に対応済み。

2. オーダー型管理システムの構築

東福寺派管理システムの構築

新たに宗務本院管理システムを受注した。平成29年6月に納品する。

妙心寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

南禅寺派管理システムの機能追加

システムの機能追加要望に対応した。

建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

曹洞宗宗務所管理システムの開発と運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

天龍寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

佛通寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

⑧真言宗神奈川宗務支所システム開発

保守契約によるシステム保守を行なった。

⑨青蓮院管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

⑩藏春寺管理システムの運用サポート

システムの開発に対応し、平成28年6月に納品した。

3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows版の開発と販売

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows版の開発を行ない発売中。今年度販売数は4セット。

4. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。
主な取扱い品：「禅の語録」シリーズ（筑摩書房）、「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」（以上千真工芸）、「毒湛和尚語録」（南陽院）、「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「無文老師法話集」（アートディズ）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「版画 十牛図」（まつ九）等

〈2〉 共益事業

1. 臨黄合議所事務局

○年間会議

平成28年4月28日（木）	理事会（大本山南禅寺）
平成28年6月29日（水）	総会（大本山南禅寺）
平成28年9月2日（金）	理事会（大本山南禅寺）
平成29年1月24日（火）	理事会（京都東急ホテル）

○臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱事業

①第3回記念企画「禅ってなに？ スペシャル・リレートーク」

平成28年4月16日（土）（於 六本木ヒルズ・ヒルズカフェ）

「禅のこころ、茶のこころ」、「足もとを見よ」の国際性、「活きた禅あります！」の三部構成によるリレートークを開催。

②特別展「禅 一心をかたちに」

京都会場 平成28年4月12日～5月22日（於 京都国立博物館・平成知新館）

東京会場 平成28年10月18日～11月27日（於 東京国立博物館・平成館）

臨黄 15 派の全面協力のもと、国宝 24 件、重文 134 件を含む約 300 件の名品を選びすぐり展示、会期中にはロビー法話をはじめ様々なイベントを実施した。京都 8 万 8 千人、東京 13 万 4 千人の入場者があった。

③『臨濟録』国際学会

平成 28 年 5 月 13 日（金）・14 日（土）（於 花園大学教堂）

国内外の研究者 20 名と花園大学の教員が参加。5 つのテーマに分かれ 19 の研究発表が行われ、150 人の来場者があった。

この学会の発表論文は、平成 29 年 6 月に「『臨濟録』研究の現在—臨濟禅師 1150 年遠諱記念国際学会論文集」として禅文化研究所より発行する。

④日中合同法要訪中団

A コース 平成 28 年 9 月 6 日～8 日（3 日間）

B コース 平成 28 年 9 月 6 日～11 日（6 日間）

9 月 7 日に河北省臨濟寺で行われた日中合同法要に合わせ、遠諱総裁の中村文峰南禅寺派管長を団長に、各派管長・師家を副団長に複数の訪中団を組織して総勢 186 名が参加した。

⑤鎌倉大坐禅会

平成 28 年 10 月 29 日（土）・30 日（日）（於 大本山建長寺・大本山円覚寺）

建長寺での関東の僧堂師家、寺院住職、臨黄各派宗務総長ら 300 人が参列した大法要と、建長寺と円覚寺を会場に一般を対象にした大坐禅会を各 3 回実施した。2 日間の坐禅会にはのべ 1 千人が参加した。

⑥白隠禅師シンポジウム

平成 29 年 2 月 18 日（土）（於 東京・日経ホール）

「白隠さんと私」をテーマに横田南嶺老師と芳澤勝弘氏による講演と両者による対談を行ない、約 400 名の来場があった。

⑦その他

花園大学国際禅学研究所と共催で以下の白隠フォーラムを開催した。

雪舟×白隠フォーラム in 常栄寺 平成 28 年 11 月 19 日（土）

白隠フォーラム in 神勝寺 平成 28 年 11 月 20 日（日）

○「臨黄会報」の発行（45 号・46 号）

○第 12 回臨黄教化研究会の実施 平成 29 年 2 月 13 日・14 日（花園大学）

○臨黄互助会の促進

○中国仏教界との交流（日中臨黄友好交流協会）

○会議等の事務処理

2. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した臨黄ネット寺院会員サイト内にある「引導法語データベース（332 法語）」を公開している。